

2023年
2月号

Anger



青年達の性教育を終えて

今年度、大同生命厚生事業団の助成を得て、青年達の性教育を5回シリーズで行いました。就労している人や福祉作業所に通っている人、地域の高校3年生もいました。みんなそれぞれ、保護者同意の下、一人、またはヘルパーさんや保護者と一

緒に通ってくれました。内容はAngeで行っている「国際セクシャリティ教育ガイダンス」にもとづく包括的性教育を、青年バージョンにアレンジして行いました。

快・不快では手浴とハンドマッサージにうっとりし、それぞれの性器の紹介では知らないことだらけの自分の身体に驚き、命の繋がりでは妊婦エプロンをつけて母親の大変さを味わいました。本来なら学校教育で丁寧に学ぶところなのですが、日本の学校現場では「歯止め規定」があり難しいところがあります。だからと言って、知らないままでは大変なことになります。

今回、参加者と同じだけの人数の支援者が性教育を学びたいと、参加してくれました。その中にはヘルパーさんがおり、大人になっても男女ともに性器を綺麗に洗えない人がたくさんいることを教えてくれました。大人の体になってから親や他人が洗う事は少々難しいところがあると思います。(肢体不自由の方は別ですが…) 小さい頃から、自分の身体やその仕組みを学び、身体を大切にすることは相手の人を大切にする事にも繋がります。今後もこの取り組みを続けていきたいと思います。

今回は対象が青年と言うことで、デートDVにも取り組みました。最後にスタッフ4人がデートDVの寸劇をして青年達に伝えました。そこで驚いたことがありました。

束縛が激しい彼Aに、友達と出掛けている時にすぐに来いと言われて彼の元に行った彼女Bが、彼に「なんで早く来ないんだ!」と、暴力をふるわれるシーンを演じた後です。参加者の一人が、「遅刻して行ったのだから、仕方がない。彼女が悪い」と答えました。意外な答えに私もびっくりしてしまいました。しかし、その青年は、劇を見たまま答えたのだと思いました。彼女Bの【友達と楽しく出かけている時に、なぜ帰らないといけないのか?】【友達とこのまま遊んでいたい】【でも、早く帰らないと彼氏Aが怒って暴力を振る】【その暴力に普段から怯えている】そんな丁寧な描写が抜けていたのです。それぞれの人物の心の声をもっと、わかりやすく伝えるべきでした。障がいのある人の中には、見えない事をイメージすることが難しかったり、相手の気持ちを想像したり、汲んだりする事が苦手な人がいます。特性といえそうですが、だからと言って全く相手の気持ちがわからない訳でもありません。そういう特性も考慮して今後も丁寧な実践を重ねていきたいと思いました。

郡 奈美

~研修会「権利擁護について」を行いました~

1月19日、日本障害者協議会副代表の藺部英夫先生を講師にお迎えして「権利擁護について」の研修を行い、人権条約や北欧の障がい者の豊かな生活についてお話いただきました。北欧の障がい者は年金が年間約300万円(日本は1級で年間約97万円)あり、安定した生活を送ることができてナミビアの子どもを支援していたり、ヘルパーさんとイギリスサッカーの試合を見に行ったりしています。参加者は日本との違いに衝撃を受け、今できることは何か、それぞれの立場から考えるきっかけとなりました。参加者の中には「権利擁護」と聞いて難しいイメージを持っておられた方もいましたが、素敵な写真や歌を交えてわかりやすくお話いただき、研修終わりにはもっと藺部先生のお話を聞きたいという声がたくさんありました。参加された保護者から「(我が子の権利を) もっと言っていいんですね」と、また、支援者から「できることを少しでも発信していきたい」と感想を頂き、研修を通して気持ちに変化があった方がおられ、研修会の意義や大切さに改めて気づかされました。今後もっともっと研修会の参加者が増え、権利の話も含め障がい者についての理解が広まればと思います。来年度も多数研修会を予定しております。ぜひご参加いただき一緒に学びましょう。そして今できることの一つとして、署名活動があります。用紙を同封しておりますのでご協力をお願いいたします。

節分



2月2日と3日に豆まきをしました。westではその前の1日にもビニール袋とサーキュレーターを組み合わせて鬼を作ったの疑似豆まきをしたので計3日間もすると最終日は鬼なんて怖くない!1日目は怖くて目を潤ませている人もいましたが、2、3日目は鬼を囲んでどの人も勇敢に立ち向かっていました。そしてその姿を横目に、投げるはずの豆(落花生)を投げず、堂々ともしも食べている人もいて、それぞれ豆まきを楽しみました。服部ではマットに座って鬼を待ち構えていたのですが、鬼が登場すると2~3人は鬼を追いかけたり近くに行って豆を投げたりするものの、鬼の迫力に負けてかマット(=安全地帯)の近くから鬼を狙うか、鬼を目で追い警戒している人が多数。数人の精鋭が鬼を退治した後、「やったー!」とスタッフの声がかけましたが、それよりもやっと鬼が出ていった安心感からか、数人は呆然と立ち尽くすのでした。



避難訓練ウィーク

1月16日から一週間は地震の避難訓練をしました。初めに、地震が起こったら大切な頭や身体を守ることを伝え、練習をしました。初日は、地震速報を鳴らしてもマットに座ったまま、スタッフに促されてようやく机の下にもぐりました。けれども、続けていくうちに自ら頭を守り机にもぐる姿が増えてきました。揺れが落ち着いた後、豊島小学校まで歩いて避難しました。今回は学校側のご厚意により、災害時に解放される門から避難場所の体育館まで入らせていただきました。初めての場所に行くことは難しい子も多いので、こういう機会を頂けて、とても有難く思いました。子ども達も覗くように中を覗き込んでいました。一週間、毎日することで、子ども達に変化が現れます。初めは、小学校までの道程も「おさんぽ?」ぐらいの感覚だったのが、自ら机の下へ行き、合図があるまでじっと待ち、外へ出るのもスムーズに動けるようになりました。スタッフも子ども達の動きを見て、こうした方がいいのではないかと意見を話し合っより良い避難行動ができるよう工夫を重ねています。いざという時のために、積み重ねることが大事なんだとあらためて思う一週間でした。

